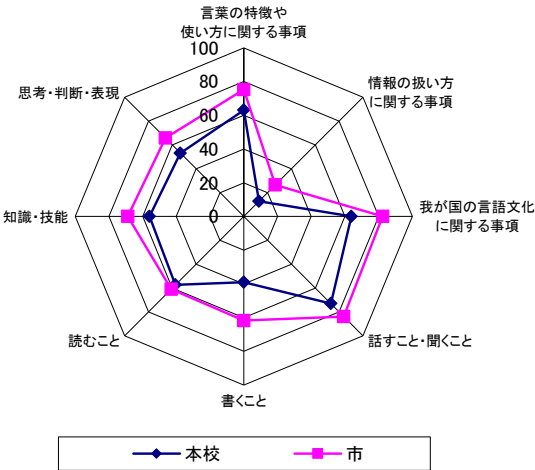


宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	63.1	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	12.8	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	63.8	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	73.0	83.9	84.2
	書くこと	39.0	61.7	64.5
	読むこと	57.4	60.9	61.0
観点別	知識・技能	55.9	68.8	70.3
	思考・判断・表現	53.2	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

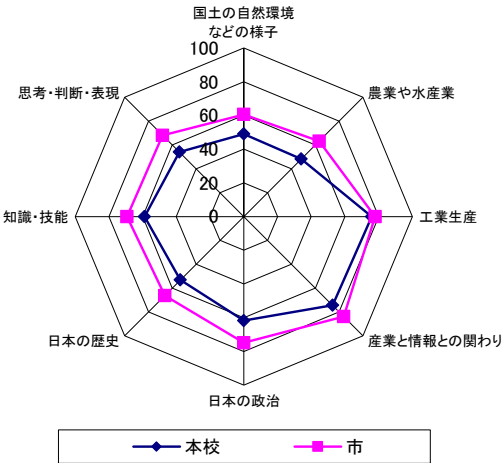
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	●市の平均正答率よりも12.2ポイント低い。5・6年生で学習した漢字の書き取りで市の平均を下回るものが多くあった。 ○漢字の読み取りでは、3問中2問の正答率が100%であった。 ●文脈に沿った漢字や文と文との接続の関係を解答する問題などで誤りが見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習については、授業や日常生活の中で意味に触れたり、同音異字の言葉の意味調べをしたりすることで、熟語への知識・理解が深まるようにする。 ・文と文を接続する言葉の学習については、授業で文章を書くときにどのような接続する言葉が適切なのか毎回確認することで、定着を図っていく。
情報の扱い方 に関する事項	●市の平均正答率よりも13.7ポイント低い。文章から必要な情報を探して書き抜いたり、情報と情報とを関係付け整理して文章にまとめたりする問題での正答率が低かった。	・今後も、情報を読み取る際には、自分の考えを文章にし、読むことや書くことを関連付けて指導をしていく。
我が国の言語文化 に関する事項	●市の平均正答率よりも18.6ポイント低い。和語、漢語、外来語を分類する問題において、それぞれについて理解が浅く、誤りが見られた。	・熟語の成り立ちやその由来を整理し、繰り返し学習することで理解を深めていく。
話すこと・聞くこと	●市の平均正答率よりも10.9ポイント低い。インタビューの内容を聞き取る問題では、話を正確に聞き取ることが難しく、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているかを問われる問題の正答率が低かった。	・話し合い活動を行う際には、どのような手順で話したらよいか、また、相手に自分の考えが明確に伝わるようにするにはどのようにしたらよいかの指導を充実させるとともに、それぞれの発言を整理し、話し合いの内容が理解できるようにする。
書くこと	●市の平均正答率よりも22.7ポイント低い。情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書くことが難しく、正答率が低い。 ●指定された長さで、段落の構成を考えて文章を書く問題も市の平均よりも29.2ポイント低い。 ●予想される反論とそれに対する意見を書く問題も、市の平均よりも24.3ポイント低い。	・文字数や段落数などの制限を設けるなど、条件を与えて作文をする活動を意図的に取り入れ、書くことに慣れるようにする。
読むこと	●市の平均正答率よりも3.5ポイント低い。叙述を基に文章の内容を捉えることが苦手な傾向にある。 ○物語を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる問題は市の平均と比べ6.4ポイント高い。	・物語文では、登場人物の心情について、物語中の変化、背景描写、比喩など物語の中にある様々な叙述に気を付けながら丁寧に読み取りを行っていく。 ・説明文では、段落の構成を考えたり、段落ごとの要旨をまとめたりすることで筆者の主張が正しく読み取れるよう指導していく。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	48.9	60.5	65.8
	農業や水産業	48.2	63.3	66.0
	工業生産	75.9	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	74.5	83.8	76.6
	日本の政治	61.7	74.9	74.1
	日本の歴史	53.2	66.3	68.3
観点別	知識・技能	58.9	69.3	71.4
	思考・判断・表現	54.1	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

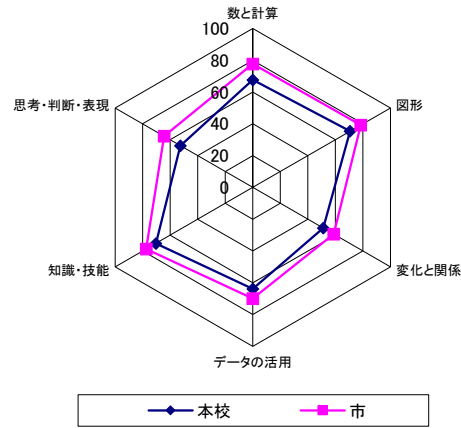
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	●平均正答率は、48.9%で、市の平均を11.6ポイント下回っている ○日本の周辺の海洋名についての理解は、平均正答率を74.5%と市の平均を上回っている。 ●海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成について、地図をもとに考える問題における平均正答率は42.6%と市の平均を21.4ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・関連がある学習をした際には、地名や県名などの場所を地図で確認したり、授業の始まるの時間などを使い、地図帳などを用いて意図的に復習したりしながら、習熟を図っていく。
農業や水産業	●平均正答率は、48.2%で、市の平均を15.1ポイント下回っている。 ●日本の主な食料の自給率についての問題や輸入などの外国との関わりにおける課題についての問題の正答率が低く、理解することが難しかった。	・重要語句の調べ学習などに取り組み、語句の正しい意味について理解できるようにさせていく。また、理解した言葉を使って短い文章でまとめるなど、言語活動の充実を図っていく。
工業生産	●平均正答率は、75.9%で、市の平均を2ポイント下回っている。 ○自動車の部品を再利用する目的についての問題は、市の平均を0.3ポイント上回っている。 ●自動車の製造工程についての問題が83%と市の平均を7.2ポイント下回っている。	・工業の領域では、自動車をはじめ機械を扱った問題が見られることから、難しい言葉や漢字ばかりが並ぶので、意図的に復習をするなどして、基礎的な知識を確実に覚えられるようにしていく。工業製品の海外への出荷については、実感を持つことが難しいことから、新聞やニュースなどを用いて、より身近なものとして捉えさせていきたい。
産業と情報との関わり	●平均正答率は、74.5%と、市の平均を9.3ポイント下回っている。 ●産業における情報活用の現状について問われた問題では、市の平均を13.1ポイント下回っている。	・各情報メディアの特色について復習したり、メディアの情報を利用する際の注意点を定期的に確認し合ったりする。新聞やテレビ、インターネットでの情報を取り上げ、情報産業や情報化社会の中で生活している自分の問題として捉えられるようにしていく。
日本の政治	●平均正答率は、61.7%で、市の平均を13.2ポイント下回っている。 ○日本国憲法の平和主義の考え方を問われる問題では、市の平均と同じであった。 ●議会政治について、資料をもとに考える問題において、市の平均を27.5ポイント下回っている。	・政治の領域については、苦手意識を持っている児童も見られ、日本国憲法の三原則や三権分立の仕組み、国民の権利と義務などについては、単元テストでも理解が不十分な児童が見られた。朝の学習の時間やAIDリルを活用した家庭学習などを活用し、定期的に復習できるようにしたい。
日本の歴史	●平均正答率が53.2%と、市の平均を13.1ポイント下回っている。 ○鎖国についての問題では、市の平均よりも3.8ポイント上回っており、おおむね理解しているといえる。 ●雪舟について問われる問題では、平均正答率が14.9%で市の平均を38.7ポイントも下回っており、理解が不十分な児童が見られた。	・写真や映像、実物を見せながら、その時代の文化や背景を考えられるような指導を継続して行い、単元の終わりには他の時代ではどうであったかを考えさせながらまとめ、理解を深められるようにしていく。 ・自分の言葉で文章にして、表現することに苦手意識を持っている児童が多い。そのため、授業の中で、自分の言葉で表現する機会を意図的に設け、言語活動を行っていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	67.7	77.7	78.6
	図形	70.6	78.4	74.4
	変化と関係	51.1	58.7	53.0
	データの活用	63.8	69.9	57.2
観点別	知識・技能	70.4	77.5	74.0
	思考・判断・表現	52.6	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

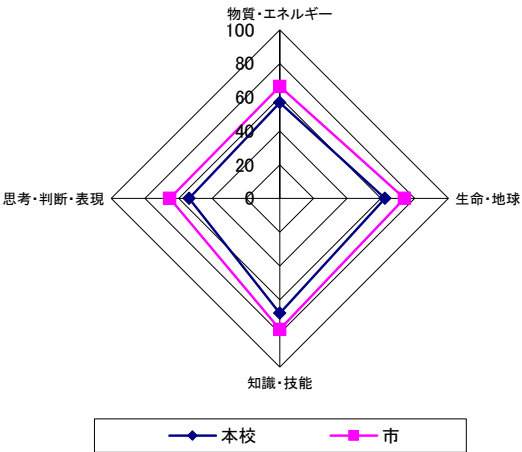
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は、67.7%と市の平均正答率を約10ポイント下回った。 ●小数÷小数の問題では、平均正答率が72.3%で、市の平均を13.1ポイント下回っている。 ●小数の乗法の問題では、図を使って文章にあった立式をする問題での正答率が63.8%で、市の平均を23.4%と大きく下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小数の計算では、小数点の処理の誤りや、付け忘れによる誤答が見られる。様々な問題に取り組ませ、計算力を定着させるために継続して指導する。 ・図や数直線をもとに立式することに苦手意識を持つ児童が一定数見られる。授業の中で、数量関係を図や数直線で表す活動や、数量関係を読み取って式に表す活動を積極的に取り入れ、習熟を図る。
図形	●平均正答率は、70.6%と市の平均正答率を約7.8ポイント下回った。 ○対称な図形では正答率が高く、特に対称の中心について問う問題では、正答率が95.7%で市の平均を1.3ポイント上回っている。 ●ひし形の面積を求める式を考える問題では、正答率が57.4%で、市の平均を18.4ポイント下回っており、図形の面積の求め方には課題が見られた。 ●三角形の外角を求める問題では、正答率が55.3%で市の平均を9.5ポイント下回っている。	・平面図形の面積を求める問題では、面積の公式など図形に関する知識が確実に身につくように、復習の機会を設け、基礎の定着を図る。 ・多角形の内角や外角のきまりを使って角度を求める問題では、基本の定着を図るとともに、発展的な問題にも対応できるよう、様々なパターンの問題に取り組ませる。
変化と関係	●平均正答率は、51.1%と市の平均を7.6ポイント下回った。 ○表から面積と人数の割合を求め、どのプールが混んでいるかを考える問題では、平均正答率が53.2%で、市の平均と同程度の数値となった。 ●分速を秒速や時速にす問題では、正答率が31.9%と低く、速さの単位の理解に課題が見られる。	・面積と人数から混み具合を考える問題では、段階的に発展的な問題につながるよう、習熟を図っていく。 ・速さの問題では、単位の学習と関連づけて、基本的な問題を中心に取り組ませ、定着を図る。
データの活用	●データの活用では、平均正答率が63.8%で、市の平均を6.1ポイント下回っている。 ○ドットプロットから最頻値や中央値を読み取る問題での正解率が76.6%で、市の平均を5.7ポイント上回っている。 ●平均と合計の関係を活用して、平均から全体の量を推測する問題では、平均正答率が48.9%と低く、市の平均を1.3%下回っている。 ●ヒストグラムの特徴をもとに、平均値の記録について説明する問題では、正答率が21.3%と低く、市の平均を14.4ポイント下回っている。	・平均の求め方をもとに、様々なパターンの問題に取り組ませることで、理解を深めていく。 ・グラフや図から読み取ったことを、題意に沿って説明することに苦手意識を持っている児童が多く、記述問題には無回答の割合が半数近くを占めており、課題が見られる。題意に沿って自分の考えを順序立てて説明する活動を様々な場面で取り入れ、習熟を図っていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	56.8	66.5	66.3
	生命・地球	62.4	74.0	72.6
観点別	知識・技能	68.1	77.6	78.2
	思考・判断・表現	53.8	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●市の平均正答率より9.7ポイント低い。 ○メスシリンダーやろ過の操作の問題の正答率は、市の平均正答率より12.3ポイント高い。 ○木が燃えた時の缶の中の気体の割合を答える問題では、正答率が89.4%と高く、市の平均正答率よりも1.6ポイント高い。 ○未知の水溶液を特定する実験の方法を計画する問題では、市の平均正答率よりも7.6ポイント高い。 ●ふりこのきまりの、ふりこのふれはばを変えても一往復の時間が変わらないという関係について、問題の正答率が市の平均正答率より33ポイント低い。 ●電磁石の、銅線を同じ方向に巻いて中に鉄心を入れたものをコイルと答える問題の正答率が、市の平均より43ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験や観察をする際には、あらかじめ予想を立て、何を求めるための実験を行うのかや、そのために変える条件・変えない条件などの条件制御についてよく理解させてから行うようにする。また、苦手傾向のある単元や内容については、プリントやAIDリルで復習の時間を確保し、定着を図っていく。
生命・地球	●市の平均正答率より11.6ポイント低い。 ○月と太陽の単元では、すべての問題で市の平均正答率を上回った。太陽と月と地球を見立てて実験をした問題では、正答率が100%であった。 ●台風の発生と進路について問われた問題では、市の平均正答率よりも30ポイント以上低い。 ●植物のつくりとはたらきで、実験から対照実験の目的を指摘する問題では、市の平均正答率より22.6ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・食物連鎖や、植物のつくりとはたらき・植物の発芽と成長などの学習や、天気の変化の学習では、じっくり観察し、さらにインターネットの情報や映像資料を活用し学習すると共に、図を使って学習した内容をまとめるなどして、理解を深めていく。

宇都宮市立城山中央小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・互いに認め合い、主体的に学ぶ児童の育成	・「居がい、やりがい、学び合いを目指した算数指導」の校内研修の充実 ・一人一授業等による「分かる授業」の研究実践 ・『城山小スタンダード』に基づいた授業の展開の研究 ・望ましい学級集団作りと学級活動の充実 ・児童の実態把握と達成感の達成への支援	・「宿題をきちんとやっている」「授業が分かる」「分かるとうれしい」の平均肯定割合は約9割であった。 ・「進んで話合いに参加している」「ノートにまとめている。」の平均肯定割合が約8割であった。「根拠をあげながら話すことができる」は昨年度より増え約8割であった。 ・「勉強して、おもしろい、楽しい」は約9割であった。
・基礎的基本的な学力の獲得	・AIドリルや朝の学習時間の充実による基礎・基本の学力の定着 ・算数について4年生以上の学年で習熟度別学習の実施 ・パソコンや辞書などの活用の充実 ・「書くこと」を意識した授業の展開の工夫 ・漢字・計算検定の実施 ・家庭学習の習慣化 ・「家庭学習強化週間」の年2回の実施 ・「ぐんぐん学習だより」発行による家庭との連携	・全教科すべての領域で市の平均正答率より低かった。単元によっては、市の平均正答率よりも高いものもあり、漢字の読みは2問が100%であった。 ・どの教科も、記述する解答形式での正答率が低い。 ・「宿題をきちんとやり、期限までに提出している。」の肯定割合は約9割で良好であるが、上学年になると8割に下がる。 ・平日の家庭学習時間が「学年の目標時間」に達しない児童の割合が、1年6.3%、2年16%、3年31%、4年28%、5年51.4%、6年46.8%であった。昨年度に比べて「ほとんどしない」「10分程度」が増えている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

・すべての教科領域において基礎・基本の力が十分ではなかった。今後も児童の『一人一人が分かる授業』を目指し授業力改善に取り組むとともに、すべての教科で基礎・基本の定着を図る工夫を行い、分かったことから考えをまとめて書く力、文章にする力の育成に努める。

・家庭学習への取組については、次年度も継続して指導を行い、学習の習慣化を促進する。また、基礎・基本の力の確実な定着へつながるよう朝の学習等の充実を図る。特に「書く」ことの指導を重点的に行っていく。

・クロームブックを話し合いを深める手立てとして活用したり、AIドリルなどを用いて繰り返し学習を行い基礎・基本の力を育成する手立てとしたりして、今後も一層の活用に努める。